

(1) 設備の概要

1) 架台

架台は左右の架設桁を直接支持する部材である。

PC 桁の外桁を架設する場合には、片側の架設桁のみで PC 桁を吊り下げて横取りを行うのが標準である。従って、外桁の架設時には片方の架設桁および架設する PC 桁の全質量が、片側の架台、横行台車に作用するため、この作用荷重に対して所定の耐力を有する構造となっている。

架台は H 形鋼の支柱材を主鋼材として構成されている。

2) 横行台車

横行台車は走行装置を組み込んだ自走式の台車であり、架設桁前方に 2 台、後方に 2 台の計 4 台が配置される。PC 桁横取り時には、4 台が同調して駆動するように操作盤により連動制御される。

横行台車は、架台と同じく、外桁の架設時には片方の架設桁および架設する PC 桁の全質量が作用した状態で走行できる能力を有している。

3) 横行レール

横行レールは、前方の鋼製ベント、後方の架設が完了した PC 桁（あるいは橋台背面（または橋台上）に設置した鋼製ベント）により、最大支間長 2.48m 以下で連続支持される梁材であり、鋼製板桁、または H 形鋼等により構成される。

横行レール上には、横行台車走行用角レールが、また、横行レール両端部には横行台車の逸走防止用ストッパーが設置されている。

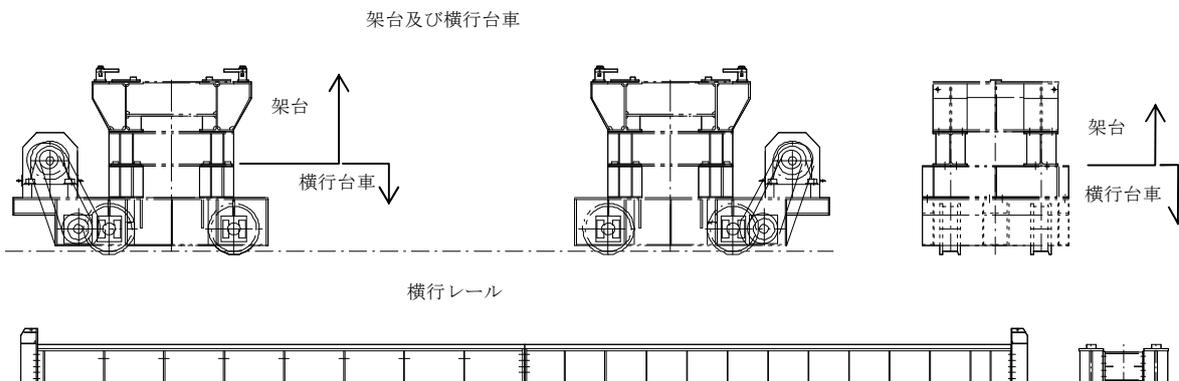


図 3-4-9-① 二組桁横取り装置参考図

(2) 二組桁横取り装置設備の複合損料の内訳

二組桁横取り装置設備の複合損料の内訳は次表の通りである。

表 3-4-17-① 二組桁横取り装置設備の複合損料の内訳

(供用 1 日当り)

種類	名称	規格	単位	数量	単価	損料
二組桁横取り装置設備						
	二組桁横取り装置	定格荷重 kN( t)用	組	2		
	計					

- (注) 1. 二組桁横取り装置には、架台、横行台車、横行レール、操作盤、小器材等を含む。  
 2. 二組桁横取り装置の複合損料は、架設桁の前方、後方、2 組の損料である。  
 3. 横行レールの支持間隔が 2.48m を超える場合は、別途積算する。  
 4. 定格荷重が 784.5kN(80t) を超える場合は、別途積算する。

(3) 二組桁横取り装置設備の複合損料

二組桁横取り装置設備の複合損料は次表の通りである。

表 3-4-17-② 二組桁横取り装置設備の複合損料

(供用 1 日当り)

定格荷重 kN( t)用	294kN(30t)	392kN(40t)	490kN(50t)	588kN(60t)	687kN(70t)	785kN(80t)
PC 桁の質量 (t)	60	80	100	120	140	160
設備質量(1 組当り)(t)	24.8(12.4)	27.6(13.8)	30.2(15.1)	32.0(16.0)	36.2(18.1)	38.8(19.4)
複合損料 (円)	56,200	61,000	66,000	70,800	77,200	83,400

- (注) 1. 二組桁横取り装置には、架台、横行台車、横行レール、操作盤、小器材等を含む。  
2. 二組桁横取り装置は、架設桁の前方で使用する 1 組と後方で使用する 1 組、合計 2 組を使用する。  
3. 上表の二組桁横取り装置複合損料は、架設桁の前方、後方、2 組の損料である。  
4. 横行レールの支持間隔が 2.48m を超える場合、橋体幅員が 11.5m を超える場合は、別途積算する。  
5. 定格荷重が 785kN(80t) を超える場合は、別途積算する。

(4) 二組桁横取り装置設備の規格数量

二組桁横取り装置設備の規格数量は、土木構造物標準設計（建設省制定）の PC 桁を、二組桁架設工法により架設する場合の作用荷重をもとに、定格荷重毎に試設計を行い決定したものである。従って、上記標準設計以外の PC 桁を架設する場合は、別途質量を算出する。

表 3-4-17-③ 二組桁横取り装置設備の規格数量表

(1 組当り)

定格荷重 kN( t)用	294kN(30t)	392kN(40t)	490kN(50t)	588kN(60t)	687kN(70t)	785kN(80t)
PC 桁の質量 (t)	60	80	100	120	140	160
横行レール (組)	294kN 用(1)	392kN 用(1)	490kN 用(1)	588kN 用(1)	687kN 用(1)	785kN 用(1)
横行台車 (台)	1.5kw (2)	1.5kw (2)	2.2kw (2)	2.2kw (2)	3.7kw (2)	3.7kw (2)
架台 (組)	294kN 用(2)	392kN 用(2)	490kN 用(2)	588kN 用(2)	687kN 用(2)	785kN 用(2)
操作盤 (組)	2	2	2	2	2	2
1 組当り設備質量(t)	12.4	13.8	15.1	16.0	18.1	19.4

- (注) 1. 二組桁横取り装置には、架台、横行台車、横行レール、操作盤、小器材等を含む。  
2. 二組桁横取り装置は、架設桁の前方で使用する 1 組と後方で使用する 1 組、計 2 組を使用する。上表は 1 組当りの数量である。  
3. 横行レールの支持間隔が 2.48m を超える場合、橋体幅員が 11.5m を超える場合は、別途質量を算出する。  
4. 定格荷重が 785kN(80t) を超える場合は、別途質量を算出する。

(5) 二組桁横取り装置設備の選定

二組桁横取り装置設備の選定は、架設時の作用荷重に対応した定格荷重のものを選定する。